

令和2年度用「中学社会 歴史」1年 年間指導計画作成資料（案）

令和2年6月版

取り扱いに当たっての留意事項

- 「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」では、学習内容や時数について考えられる案を示しています。学校や地域の実態に応じてご参照ください。
- 表中の「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」とは、「学校の授業以外の場で学習したことを基に、授業で各活動が展開されること」を前提としています。学校以外の場のみで学習が完結するということではありませんので、授業における配慮をお願いします。
- 単元ごとの配当時数、主な学習活動などは、今後変更になる可能性があります。予めご了承ください。
- 各単元の評価規準、及び評価基準については、弊社ウェブサイトの「年間指導計画・評価計画（案）」をご参照ください。

教育出版

歴史的分野 指導計画表 (第1学年)

※歴史での時数45時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動3時間

(第1学年の社会科全体の時数105時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動21時間)

※第1学年の総配当時数105時間に対し、教科書では地理的分野・歴史的分野を合わせて「本時」を92時間(地理:47時間, 歴史:45時間)で設定し、残りの13時間を予備として、特設ページなどを弾力的に取り扱っていただくように構成しています。

本資料では、歴史的分野(第1学年)について、「学習のまとめと表現」など3時間分を、学校の授業以外の場で行うことで、今年度のカリキュラムを42時間の授業時数で作成できるように提示しています。

第1章 歴史の移り変わりを考えよう

(配当3時間, うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動1時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
1	タイムトラベル・サミット (p.6~7) ①小学校で学習した歴史上の人物を思い出そう。 ②③建造物と関わらせながら、人物をおおまかな年代でグループ分けしよう。	○小学校での歴史学習を振り返り、どのような人物がいたか関心をもつ。 ○人物と同時代につくられた建造物を確かめ、おおまかな年代のグループに分ける。	
2	「時代の分け方・年表の見方」を振り返ろう (p.8~9) ④時代の分け方や年表の見方について確かめよう。 ・グループ分けした人物と建造物を、年表にあてはめよう。	○時代区分の方法や年代の表し方(西暦・世紀・年号[元号])について理解する。 ○人物と建造物を年表にあてはめ、歴史の移り変わりについて気づいたことを話し合う。	
3	新たなチームづくりにチャレンジしよう (p.10) ⑤みんなで分担して「人物カード」をつくろう。 ⑥みんなの「人物カード」を持ち寄って、カードをグループ分けしよう。	○人物の絵や写真を集め、名前や活躍した時代、行ったことを調べて「人物カード」にまとめる。 ○「人物カード」を政治や文化などで活躍した人物に分類する活動を通して、歴史上の人物が様々な働きをしていたことに気づかせる。	
4	歴史にアプローチ (p.11~14) ①②⑤歴史学習に登場する干支や単位、植物などについて理解しよう。 ③④歴史学習で必要になる、絵巻物や系図の読み解き方を身につけよう。	○「本時」(通史)の学習に登場する、干支や単位などについて関心を高める。 ○絵巻物や系図などの歴史資料に興味を持ち、その読み解き方を身につけようとする。	●本文を読み進め、「本時」(通史)の学習で干支や単位などの表現が登場した際に、「歴史にアプローチ」を振り返ることができるよう、あらましを理解する。 ●資料の読み解きに挑戦し、「本時」(通史)の学習で絵巻資料や系図などの歴史資料が登場した際に、「歴史にアプローチ」を振り返ることができるよう、あらましを理解する。 【1時間】

第2章 原始・古代の日本と世界
 (配当16時間, うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間)

1節 人類の出現と文明のおこり(配当4時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
5	①生きぬく知恵 (p.16~17) ・人類の生い立ち ・火や言葉の使用 ・弓矢と土器の使用 ・農耕と牧畜の始まり	○人類が進化する過程で, 直立二足歩行や共同生活が果たした役割について考える。 ○人々が道具を発達させ, 農耕・牧畜を始めたことで, 暮らしや社会が変化し, やがて文明が形づくられていったことを理解する。	
6	②エジプトはナイルの賜物 (p.18~19) ・オリエントとは ・エジプト文明 ・メソポタミア文明 ・アルファベットとユダヤ教	○ナイル川やチグリス川・ユーフラテス川の流域で, 農耕や牧畜が盛んになり, エジプト文明とメソポタミア文明が形づくられていったことに気づく。 ○エジプト文明とメソポタミア文明の特色や, 文字・暦・数学などが発達した理由について考える。	
7	③骨に刻まれた文字 (p.20~21) ・中国文明と儒教のおこり ・インダス文明 ・仏教のおこり	○中国文明とインダス文明の特色について, 自然条件・農業・文字・金属器などの面から考え, 世界各地でおこった古代文明を比べて共通する特色に気づく。 ○文明地域でおこった儒教や仏教が, アジア各地や日本に広まり, 社会や人々に影響を与えたことに気づく。	
8	④東と西をつなぐ道 (p.22~23) ・古代中国の統一 ・朝鮮半島の国々 ・ローマ帝国とキリスト教のおこり	○中国で統一国家が成立した後, ローマ帝国との交通路が開かれたことを理解するとともに, 朝鮮半島の国々の動きに倭(日本)も関わっていることに気づく。 ○ローマ帝国では, 実用的な文化が発展したことや, 西アジアでおこったキリスト教が国教となり, やがてヨーロッパに広まっていったことを理解する。	◇移行措置期間中の扱いとして, ギリシャ・ローマ文明については, 適宜資料を用いてギリシャ・ローマ時代の政治制度の特徴・移り変わりについては補いながら, p.19「歴史の窓 古代ギリシャの文化」とp.23「ローマ帝国とキリスト教のおこり」の学習内容を丁寧に指導することで対応できる。

2節 日本の成り立ちと倭の王権(配当3時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
9	⑤日本列島のあけぼの (p.24～25) ・日本列島への移住 ・縄文時代の始まり ・竪穴住居のむら	○氷河時代の日本列島に、大陸から旧石器時代の人々が移住してきたことを理解する。 ○縄文時代の人々の暮らしは、旧石器時代と比べてどのように変化したのかを、遺跡や出土物から考える。	
10	⑥楽浪の海中に倭人あり (p.26～27) ・稲作の伝来 ・弥生時代の暮らし ・むらからくに(国)へ ・女王の国	○弥生時代の人々の暮らしは、縄文時代と比べてどのように変化したのかを、遺跡や出土物から考える。 ○稲作の広まりによって貧富や身分の差が生まれ、くに(国)の形成が進んだことを、邪馬台国を例に理解する。	
11	⑦東アジアのなかの大和政権 (p.28～29) ・古墳の出現 ・大和政権の成立と豪族 ・朝鮮半島・中国との交流 ・渡来人の伝えた文化	○古墳の規模や分布などから、近畿地方で大王を中心とする大和政権が成立し、各地に勢力を拡大したことを理解する。 ○大和政権が朝鮮半島の国々との関係を深め、盛んに交流した理由について、渡来人の果たした役割との関わりから考える。	
—	◆郷土の歴史を探ろう 地域の遺跡や古墳を訪ねて (p.30～31)	○身近な地域にある遺跡や古墳について様々な方法で調べたり、古代の暮らしを体験したりする活動を通して、地域の歴史に関心を持ち、学び方を身に付ける。 ○縄文時代の文化の広がりについて、三内丸山遺跡を例に理解を深める。	●歴史の「身近な地域の歴史を調べる活動」については、便宜上第3学年の最初に位置づけているが、地域や学校の事情、活動内容等に応じて、適宜時期を組み替えて学習することができる。 ※なお、この内容を第2学年までに学習している場合には、第3学年での取り扱いは不要。

3節 大帝国の出現と律令国家の形成(配当3時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
12	⑧広がる国際交流 (p.32～33) ・隋と唐の中国統一 ・新羅の朝鮮半島統一 ・イスラム教のおこりとイスラム世界	○東アジアでは、律令制を確立した唐が大帝国に発展し、新羅が朝鮮半島を統一したことを理解するとともに、進んだ制度や文化が日本に伝えられたことに気づく。 ○西アジアではイスラム教がおこり、イスラム世界(イスラム帝国)が成立して東西の交易で繁栄したことを理解する。	
13	⑨あつく三宝を敬え (p.34～35) ・豪族たちの争い ・聖徳太子の政治と遣隋使 ・飛鳥文化	○蘇我氏と聖徳太子が、中国や朝鮮の国々にならった新しい政治を進めた理由について考える。 ○飛鳥文化は、大陸の影響を受けた仏教文化であり、渡来人の果たした役割が大きいことを理解する。	
14	⑩律令国家への歩み (p.36～37) ・大化の改新 ・進む国づくり ・律令国家の成立	○大化の改新や壬申の乱を経て、大宝律令が制定され、唐にならった律令国家が成立したことを理解する。 ○律令政治のしくみを理解し、天皇を中心とする中央集権の国家であることに気づく。	

4節 貴族社会の発展(配当4時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
15	⑪シルクロードにつながる道 (p.38～39) ・平城京と国土の支配 ・遣唐使 ・天平文化	○律令国家の都として平城京がつくられ、遣唐使らによって伝えられた国際色豊かな文化が、都の貴族を中心に栄えたことを理解する。 ○奈良時代になって、国家により寺院の建設や歴史書の編纂が行われた理由について考える。	
16	⑫木簡と計帳は語る (p.40～41) ・貴族の暮らし ・農民の暮らし ・進む開墾	○都の貴族の豊かな暮らしは、全国から集められる税によって支えられていた一方で、地方の農民にとっては、税や労役・兵役が重い負担となっていたことを理解する。 ○朝廷が墾田永年私財法を出した理由について考え、それにより公地公民の制度が崩れ始めたことに気づく。	
17	⑬望月の欠けたることもなしと思えば (p.42～43) ・平安京 ・律令制の変化 ・藤原氏の摂関政治	○桓武天皇は、律令政治の立て直しを図るため、平安京への遷都や東北地方への出兵などを行ったことを理解する。 ○平安時代に藤原氏が繁栄した背景・理由について、律令制や地方政治の変化、摂関政治との関わりから考える。	
18	⑭「以呂波」から「いろは」へ (p.44～45) ・最澄と空海 ・国風文化 ・浄土へのあこがれ	○平安時代に文化の国風化が進んだ背景やその特色について、大陸との関係や、かな文字の発達などから理解する。 ○唐に留学した最澄・空海により天台宗・真言宗が新たに開かれたことや、しだいに社会不安が高まるなかで、浄土の教えが広まったことに気づく。	
—	◆資料から歴史を探ろう 木簡が語る人々の暮らし (p.46) ◆人物と地域から歴史を探ろう 坂上田村麻呂と阿豆流為の戦い (p.47)	○木簡の使われ方に関心を広げ、長屋王を例に、平城京での貴族の豊かな暮らしについて理解を深める。 ○朝廷による東北地方への支配拡大の動きから、古代の中央集権国家と蝦夷との関係について考えを深める。	
—	◆資料から歴史を探ろう 神話にみる古代の人々の信仰 (p.48～49)	○『古事記』や『日本書紀』、『風土記』などに神話が記されていること、それらの神話に由来する伝統的な行事も残されていることを理解する。 ○『古事記』に記された神話を通して、古代の人々の信仰やものの見方について考える。	
19 20	★学習のまとめと表現 (p.50～53)	○原始・古代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○原始・古代から中世へ時代がどのように変化していったのか、政治の担い手に着目して関心をもつ。	●p.50～51では第2章の学習を振り返り、原始・古代の時代の移り変わりや、歴史的な事象が起こった地域の確認、政治や社会の動きについての整理に取り組む。 ●p.52～53では「原始・古代の時代の特色を考えよう!」に取り組み、時代の特色を考察して自分の言葉で表現し、まとめる。また、「時代の変化に注目しよう!」に取り組み、資料から中世(第3章)の様子について予想を立てる。 【1時間】 ※教師用指導書に収録されている「ワークシート」を活用することも考えられる。

第3章 中世の日本と世界
(配当14時間, うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間)

1節 世界の動きと武家政治の始まり(配当5時間)

累計時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動
21	①大陸をまたぐ大帝国 (p.54~55) ・宋の中国統一 ・モンゴル帝国の出現 ・高麗の朝鮮統一	○東アジアでは宋が中国を、高麗が朝鮮半島を統一し、商業や文化が発達して、宋銭・朱子学などが日本にもたらされたことを理解する。 ○モンゴル帝国(元)が東アジアから東ヨーロッパまで支配を拡大し、交通路も整えられたことで、東西の貿易や文化交流が盛んになったことに気づく。	
22	②貴族から武士へ (p.56~57) ・武士のおこり ・院政と武士の活躍 ・平氏政権の誕生	○武士がおこった背景や、武士団として勢力を伸ばしていった理由について考える。 ○院政のもとでしだいに武士が地位を高め、平氏が武士として初めて政権を握ったことを理解する。	
23	③「一所懸命」の戦い (p.58~59) ・源平の争いと平氏の滅亡 ・鎌倉幕府の成立 ・御恩と奉公 ・武士の暮らし	○源平の争いから鎌倉幕府の成立までの経緯、守護や地頭の権限について理解し、武家と公家の二つの政府による支配が始まったことに気づく。 ○土地を仲立ちとした将軍と御家人との主従関係のしくみが、武士の暮らしと深く関わっていることを理解する。	
24	④いざ鎌倉 (p.60~61) ・北条氏の執権政治 ・承久の乱 ・御成敗式目の制定	○北条氏の執権政治について理解するとともに、承久の乱で御家人たちが幕府側に結集した理由について考える。 ○承久の乱ののち、幕府の支配は西国まで広がり、御成敗式目も制定されて武家政治が安定していったことを理解する。	
25	⑤祇園精舎の鐘の声 (p.62~63) ・民衆の暮らしと社会の変化 ・新しい仏教 ・鎌倉文化	○農業の技術や生産の高まりを背景に、農民たちが結びつきを強めていったことや、定期市が開かれて商人の活動も盛んになったことを理解する。 ○鎌倉時代に生まれた新しい仏教や文化の特色について、武士や民衆の暮らしとの関わりから考える。	
—	◆資料から歴史を探ろう 地頭を訴える農民 中世の市を訪ねて (p.64~65)	○「阿氏河荘の申し状」の文書を読み解き、荘園に住む農民たちの暮らしや、荘園領主・地頭・農民たちの関係について理解を深める。 ○「福岡の市」の絵を読み解き、産業の発達や貨幣の流通、定期市の立地などについて理解を深める。	
—	◆郷土の歴史を探ろう 地域の寺社や墓碑を訪ねて (p.66~67)	○身近な地域にある寺社や墓碑について様々な方法で調べ、まとめる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、学び方を身に付ける。 ○元寇の背景や影響について、元使塚や千人塚を例に理解を深める。	●歴史の「身近な地域の歴史を調べる活動」については、便宜上第3学年の最初に位置づけているが、地域や学校の事情、活動内容等に応じて、適宜時期を組み替えて学習することができる。 ※なお、この内容を第2学年までに学習している場合には、第3学年での取り扱いは不要。

2節 ゆれ動く武家政治と社会(配当7時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
26	⑥海から押し寄せる元軍 (p.68～69) ・元軍との戦い ・幕府政治のおとろえ ・鎌倉幕府の滅亡	○元寇の経過について、高麗や南宋などの東アジア情勢と関わらせて理解する。 ○元寇が幕府政治に及ぼした影響や、鎌倉幕府が滅亡した要因について、幕府と御家人の関係や悪党の出現などの関わりから考える。	
27	⑦このごろ都にはやるもの (p.70～71) ・建武の新政と南北朝の内乱 ・室町幕府の成立と守護大名	○建武の新政が失敗した理由について考えるとともに、南北朝の争乱が続くなかで、地方の守護が力を強めていったことを理解する。 ○室町幕府のしくみをとらえ、幕府は有力な守護大名によって支えられていたことに気づく。	
28	⑧行き交う海賊船と貿易船 (p.72～73) ・倭寇の出現 ・明の成立 ・朝鮮の成立 ・明や朝鮮との貿易	○中国や朝鮮半島で倭寇の活動が活発化するなか、明や朝鮮が成立し、日本と国交を結んで貿易を行ったことを理解する。 ○明との貿易で勘合を用いた理由や、足利義満が「日本国王」を名のった理由について考える。	
29	⑨北と南で開かれた交易 (p.74～75) ・琉球王国の成立 ・蝦夷地とアイヌ民族	○琉球では、琉球王国が東アジアと東南アジアの国々を結ぶ中継貿易で栄え、独自の文化を発展させたことを理解する。 ○蝦夷地では、先住民として暮らすアイヌ民族がまとまりを強め、交易を行うなかで和人との争いも起こったことを理解する。	
30	⑩団結する村、にぎわう町 (p.76～77) ・産業や流通の発達 ・村の自治 ・町の自治	○農業生産の向上を背景に、生活の取り決めや他村との交渉など、惣による自治を行う村もみられるようになったことに気づく。 ○産業や流通が発達するなかで、各地に新たな町が生まれ、町衆による自治を行う都市も現れたことを理解する。	
31	⑪下剋上の世へ (p.78～79) ・土一揆 ・応仁の乱と下剋上 ・戦国大名の支配	○徳政や自治を求め一揆が繰り返し起こった背景には、力を強める民衆の団結があったことに気づく。 ○応仁の乱ののち、下剋上の風潮が広がるなかで、各地に戦国大名が割拠し、実力で領国を支配したことを理解する。	
32	⑫今につながる文化の芽生え (p.80～81) ・とけ合う文化 ・禅宗と文化 ・民衆に広まる文化	○室町文化の特色について、武家と公家の交流、禅宗の影響、民衆への広まりなど、政治的・社会的な背景との関わりから理解する。 ○室町文化のなかには、能や狂言、書院造、茶の湯など、今日まで受け継がれているものが多いことに気づく。	
—	◆人物から歴史を探ろう 働く女性や子どもたち (p.82) ◆地域から歴史を探ろう 戦乱の世の自治と領国経営 (p.83)	○中世の社会で働く女性や子どもたちのすがたに関心を広げ、社会で果たした役割について考えを深める。 ○戦乱の世が続くなか、人々が平和や自治を求めて一揆を起こした様子や、浄土真宗(一向宗)の勢力が強まっていったことについて理解を深める。	
33 34	★学習のまとめと表現 (p.84～87)	○中世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○中世から近世へ時代がどのように変化していったのか、風景画や貨幣の違いに着目して関心をもつ。	●p.84～85では第3章の学習を振り返り、中世の時代の移り変わりや、歴史的な事象が起こった地域の確認、政治や社会の動きについての整理に取り組む。 ●p.86～87では「中世の時代の特色を考えよう!」に取り組み、時代の特色を考察して自分の言葉で表現し、まとめる。また、「時代の変化に注目しよう!」に取り組み、資料から近世(第4章)の様子について予想を立てる。 【1時間】 ※教師用指導書に収録されている「ワークシート」を活用することも考えられる。

第4章 近世の日本と世界
(配当18時間, うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動2時間)

1節 結びつく世界との出会い(配当4時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
35	①教会と『コーラン』の教え (p.88~89) ・中世のヨーロッパとキリスト教 ・イスラム世界の発展 ・十字軍	○中世のヨーロッパでは,キリスト教・カトリック教会を中心とする文化圏がつくられたことや,イスラム世界では,様々な地域の文明を取り入れた高度な文化が発達したことを理解する。 ○中世の地中海地域で,キリスト教勢力とイスラム勢力との対立が続いた理由について考える。	
36	②中世からの脱却 (p.90~91) ・ルネサンス ・宗教改革 ・広がるイスラム世界	○中世のヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由について,都市の繁栄やカトリック教会の教義などに関わらせて考える。 ○西アジアや南アジアでは,オスマン帝国やムガル帝国などのイスラム世界が広がり,アジアとヨーロッパをつなぐ貿易で繁栄していたことを理解する。	
37	③太陽の沈まない国 (p.92~93) ・新航路の開拓 ・ヨーロッパ諸国の世界進出	○アジアとの貿易やキリスト教の布教を目的として,スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めたことを理解する。 ○ヨーロッパ諸国が,アジアやアフリカ,中南アメリカに進出して植民地を築き,その資源や貿易によって勢力を強めていったことに気づく。	
38	④戦国の世に現れた南蛮人 (p.94~95) ・鉄砲の伝来 ・キリスト教の伝来 ・南蛮貿易	○鉄砲とキリスト教の伝来,南蛮貿易について,ヨーロッパ諸国の世界進出と関わらせて理解する。 ○鉄砲やキリスト教が戦国大名を中心に広まった理由や,社会に及ぼした影響について考える。	
—	◆世界から歴史を探ろう 銀で結びつく世界 宣教師が見た日本 (p.96~97)	○南蛮貿易が,日本の銀の入手を主要な目的として行われていたことに気づき,銀を通じた日本と世界との結びつきについて理解を深める。 ○来日したヨーロッパ人の日本人観に関心を広げ,天正遣欧使節が派遣された背景について理解を深める。	

2節 天下統一への歩み(配当3時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
39	⑤天下統一を目指して (p.98～99) ・信長の台頭と室町幕府の滅亡 ・信長の政治 ・秀吉の天下統一	○織田信長や豊臣秀吉は、戦国大名や寺院勢力などと戦い、武力による天下統一を進めていったことを理解する。 ○楽市・楽座や閑所の廃止など、信長が行った政策のねらいについて考える。	
40	⑥近世社会への幕開け (p.100～101) ・太閤検地と刀狩 ・秀吉の外交と朝鮮侵略	○豊臣秀吉が命じた太閤検地や刀狩、身分統制によって兵農分離が進み、近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。 ○秀吉がキリスト教の布教を禁止した理由や、朝鮮への出兵が内外にもたらした影響に気づく。	
41	⑦城と茶の湯 (p.102～103) ・桃山文化 ・海外から流入する文化 ・民衆の文化	○ヨーロッパや東アジアから新たな文化がもたらされ、生活にも広く取り入れられていったことに気づく。 ○桃山文化の特色や民衆の文化の広がりについて、戦国大名や豪商などの担い手、戦乱の世相との関わりから理解する。	

3節 幕藩体制の確立と鎖国(配当4時間)

累計 時間	主な学習内容	学習目標	学校の授業以外の場において行うことが 考えられる教材・学習活動
42	⑧泰平の世の土台づくり (p.104～105) ・江戸幕府の成立 ・幕府の全国支配 ・大名や朝廷の統制	○江戸幕府の成立の経緯とともに、大名の配置や領地替え、武家諸法度などの政策によって、幕府が全国の大名を統制したことを理解する。 ○幕府が、諸大名に対して軍事的・経済的に優位に立っていたことや、幕藩体制のしくみにより藩の政治の責任を大名に負わせたことに気づく。	
—	◆資料から歴史を探ろう 大名行列と藩の財政 (p.106～107)	○「会津藩主参勤交代行列図」の絵や藩の財政に関するグラフを読み解き、参勤交代の様子について理解を深めるとともに、幕府がこうした制度を設けたねらいについて考えを深める。	
43	⑨東南アジアに広がる日本町 (p.108～109) ・朱印船貿易と日本町 ・禁教と貿易の制限 ・島原・天草一揆と鎖国	○江戸時代の初めには、東南アジアの多くの朱印船貿易が盛んになり、各地に日本町ができたことを理解する。 ○幕府が外交政策を転換し、「鎖国」に至る過程をとらえるとともに、その理由について、キリシタンの増加、貿易や海外情報の独占との関わりから考える。	
44	⑩開かれた窓 (p.110～111) ・中国・オランダと長崎 ・朝鮮と対馬藩 ・琉球王国と薩摩藩 ・アイヌ民族と松前藩	○鎖国下においても、長崎・対馬・琉球・松前の窓口を通じて、オランダや中国、朝鮮、蝦夷地などと、交易や交流が行われていたことに気づく。 ○琉球王国や蝦夷地のアイヌの人たちに対し、薩摩藩や松前藩が支配を強めていく過程を理解する。	
45	⑪身分ごとに異なる暮らし (p.112～113) ・武士と百姓・町人 ・村に住む人々の暮らし ・町に住む人々の暮らし ・身分による差別	○幕府や藩が人々を支配するうえで、身分制度が果たした役割や、えた・ひにんの身分とされた人々が差別を受けた理由について考える。 ○村や町に住む人々の暮らしの様子について、幕府や藩による民衆支配との関わりから理解する。	